

令和5年度 横須賀大津高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
(1) 法令遵守意識の向上（職員行動指針の周知・徹底、公務外非行の防止）【必須事項】	『神奈川県職員行動指針』の周知・徹底を図り、県民の信頼に応え得る高い倫理観の保持に努め、公務外非行を未然に防止するとともに、県民対応の基本を再確認する。	○4月7日の職員会議にて『神奈川県職員行動指針』を全職員に配付し、校長から教職員へ説明し、不祥事防止の意識の向上を図った。 ○毎週火曜日の校内研修において、指導担当教員から初任者に対して説明し、職員相互で法令遵守意識を高めた。 達成状況 公務外非行等は見られず法令遵守が図られたので「目標達成」とする。
(2) 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止【必須事項】	定期テスト、成績処理に係る事故防止及び進路関係書類に係る事故防止の徹底を図る。	○定期テスト前、成績処理の際に、不祥事防止会議を実施した。担当グループが答案の誤廃棄等に係る注意喚起をし、シュレッダー使用制限を徹底した。 達成状況 事故の未然防止がなされたが、データ入力等にヒヤリハットがあったので、「継続取り組み」とする。
(3) 入学者選抜に係る事故防止【必須事項】	入学者選抜に係る事故を未然に防止する。	○全体業務の際は、マニュアルや職員啓発・点検資料vol.153を活用し不祥事研修を実施し、共通理解をもって業務を進めることができた。 達成状況 選抜から合格発表まで、入学者選抜に係る事故はなかったので「目標達成」とする。
(4) わいせつ・セクハラ行為の防止【必須事項】	人権感覚の向上に努め、わいせつ・セクハラ行為を未然に防止する。	○1月29日～2月5日に児童・生徒に対する性暴力への対応についての研修（60分）を全教職員対象に行った。 ○「令和5年度学校におけるセクシャルハラスメントに係るアンケート調査結果」を資料とし、不祥事防止研修を行った。 達成状況 わいせつ・セクハラ事案は見られなかったので「目標達成」とする。
(5) 体罰、不適切な指導の防止【必須事項】	人権意識の向上に努め、体罰・不適切指導を未然に防止する。	○職員啓発・点検資料vol.148を活用し、7月に不祥事防止研修を実施した。また、長期休業前や学校行事の際に注意喚起し、意識の向上を図った。 達成状況 体罰、不適切な指導は見られなかったので「目標達成」とする。
(6) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	神奈川県個人情報保護条例、その他個人情報保護に関するガイドラインに則り情報の適切な管理に努める。	○情報セキュリティ監査の際に、教職員への情報管理について周知し、意識の向上を図った。 ○職員点検・啓発資料vol.150を活用し9月に不祥事防止研修を行った。 達成状況 個人情報等の管理、情報セキュリティに係る事故はなかったので「目標達成」とする
(7) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故、酒酔い・酒気帯び運転の未然防止及び交通法規遵守を徹底する。	○日頃から交通事故の事例を用いて管理職が朝の打合せ等で伝達し、啓発を行った。また、職員啓発・点検資料vol.152を活用し、12月に不祥事防止研修を実施した。 達成状況 教職員の過失による交通事故・交通違反はなかったので「目標達成」とする。

<p>(8) 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）</p>	<p>適切な業務の執行・進行管理に努める。</p>	<p>○4月に職員啓発・点検資料144を活用し不祥事防止研修を行った。 ○企画会議において職員間で円滑な業務執行のための情報共有や相互チェック体制の重要性を話題にし、職場環境の適正化を図っている。 達成状況 適切な報告・連絡・相談、情報の共有化と相互チェックを行っているため「目標達成」とする。</p>
<p>(9) 会計事務等の適正執行</p>	<p>会計事務等の適正な執行に努める。</p>	<p>○5月に職員啓発・点検資料1vol.139を活用し不祥事防止研修を行った。 ○監査結果等については企画会議をとおして情報共有し、適正な執行に努めた。 達成状況 監査が適切に行われ、学校徴収金運営協議会における意見聴取を踏まえて私費会計処理を適正に行ったので「目標達成」とする。</p>

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

令和5年度は、不祥事ゼロプログラムに課題9項目を設定し取り組みを行った。課題(7)について、令和4年度は交通事故事案が発生したので、今年度は、朝の打合せ等で注意喚起し、長期休業の前後で校長から指導する等の取り組みの結果、交通事故は3件であり、そのうち職員の過失によるものはゼロであった。

課題(1)については主に管理職が講師となり研修を行った。課題(3)～(6)、課題(8)、課題(9)については、時期に適した研修テーマを年間計画に位置付け、内容に応じて校長・副校長・教頭・グループリーダーが講師を務めた。各グループが作成した資料や、不祥事防止・啓発点検資料等を活用し、各講師が事例を紹介したり、経験に基づく呼びかけを行ったりすることで、教職員が当事者意識を高め、危機管理意識を共有することができた。また、初任者等経験の浅い職員への声かけや観察を丁寧に行い、時期を逃さず迅速な指導をすることにより、職員相互が一体感をもって不祥事防止に取り組むことができた。

課題(2)について、定期テストや成績処理の際に、教科担当教員の連絡不足により、ヒヤリハット案件が起こった。次年度は、教科内で円滑なコミュニケーションをとるための心がけや手法等について理解を深める研修を実践するとともに、毎月の不祥事防止会議や不祥事防止研修で扱い、啓発を継続したいと考える。